

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900248		
法人名	アークエム株式会社		
事業所名	グループホームゆう希苑つかだ		
所在地	千葉県船橋市前貝塚町444-1		
自己評価作成日	令和5年9月26日	評価結果市町村受理日	令和5年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和5年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その時々が発生するニーズや問題点を本人や家族の思いを尊重しつつ、スタッフの意見も取り入れ、本人、家族、スタッフ全てが解決に向けて取り組む事で、全ての人々が納得し、楽しく生活、援助できるように努めている。本人や家族が望む適切な医療やケアが受けられるように、訪問医だけにとどまらず、積極的に外部受診も行い、出来る限りこちらでも支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問調査で確認した事業所の優れている点は①利用者本人の希望に沿えるように職員同士で話し合い、知恵を絞りながら穏やかでゆっくりとした生活が営めるよう支援に努めている。②町会長や近隣の方とホームの暮らしを共有し、応援される環境など、開かれた施設作りがおこなわれている。③訪問診療による健康管理と緊急時には24時間体制での対応が実施されている。また、本人や家族の望む考えで最後を看取れるように医療機関との連携を密にし、利用者・家族の安心につながっている。④職員同士のコミュニケーションが良く、お互いの立場を尊重し、助け合う環境は働きやすく働き甲斐があり、長く勤めている職員が殆どである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

目標達成計画

作成日: 令和 5年 11月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	意思表示が困難な方の意向の把握が充分ではない。	意思表示が困難な方の意向の把握をし、ケアに活かせるようにする。	表情や仕草等から把握するだけでなく、家族や知人等、様々な社会資源を活用し、把握する。	3ヶ月
2	26	サービス担当者会議に本人の参加がされていない。	サービス担当者会議に本人の意思や思いが反映しやすいよう、参加するようにする。	サービス担当者会議に参加が可能な方は参加してもらう。本人がいると困難な内容については、席を外してもらう等、柔軟に対応をする。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員がよく目の届く玄関や休憩場所、ロッカールームに提示し、共有に努めている。家庭的かつ自立支援に特化した理念が掲げられており、実践するようにしている。	会議では理念を共有し、利用者本人の希望に沿えるようできる限り対応し、事故やケガがないように穏やかでゆっくりと心を込めたケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防の為、入居者が直接地域のイベントやクラブ活動に参加していないが、町会長や民生委員や社会福祉協議会の方達とは密に連絡をとり、情報共有している。	趙会長や民生委員、地域の方と日常的に挨拶を交し、ホームの暮らしを共有しながら応援して頂いている。自治会回覧板で高齢者介護の相談に乗るような相互の関係性が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員や近所の方等、よく話をする機会があり、その都度、介護サービスに関する相談をされる事があるが、出来る限り対応するよう心がけている。又、逆にアドバイスを頂く事もあり、一方的な関係にならないようになっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は感染予防の為、スタッフのみの開催とし、地域包括支援センター、町会長、民生委員、家族代表等に送付している。その後、意見を頂くように努め、相互作用的になるようにしている。	会議は職員のみで開催し、入居者・職員状況、事故報告、入居者の特変、「虐待に陥りやすいケースを考える」など、苑の取り組みを書面開催として報告し、地域包括支援センター等から意見を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、時期的に面と向かって、情報共有はしていないが、電話等で情報交換やアドバイスを頂く事はある。地域包括支援センターの方とは運営推進会議時だけでなく、連絡をとる機会があり、協力関係を築いている。	グループホーム連絡会で他施設の情報を共有し、地域包括支援センターと連携して認知症高齢者支援にあたっている。市の研修会に参加し、市指導監査課とは感染症対策等で協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止に向けて、年2回の研修と年4回の身体拘束適正化委員会を実施し、知識と意識の向上に努め、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	立ち上がりなど注意が必要な利用者は見守りを強化し、居室内ではセンサーを使用する等、職員同士が話し合い、身体拘束をしないケアを徹底している。研修を重ね、確認しながらホーム全体で身体拘束廃止に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為の研修を行い、虐待に繋がる考え、行為を学ぶ事で、慣れ等で陥ってしまう状況を作らない様にしている。又、合わせてスタッフのストレスや悩み事を出来る限り把握し、課題を共に解決していく事で、未然に防ぐようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフは、入居者の金銭管理や事務手続き等をする機会がないが、実際入居者で成年後見人がいる方がいるので、制度の概要については理解の把握に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に説明は丁寧に行う事を心がけている。又その際、言葉だけでなく、本人や家族の表情から不安等ないか読み解き、出来る限り納得した上で契約するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とはコミュニケーションや要望を聞く機会はあるが、家族とは直接会い話す機会が減ってしまった。手紙等一方的な方法ではなく、家族の許可のもと、電話やメール等にて、意見やコミュニケーションえお図るよう努めている。	家族意見の収集は電話やSNSで利用者の状況を報告した際に問いかけ、何でも言って頂けるような関係づくりが行なわれている。今回のアンケートでも職員を気づかう意見が多数みられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を聞く手段として、会議や個人面談を実施しているが、日頃からのコミュニケーション等からそれらを引き出しやすい環境作りをしている。	管理者は常に職員とコミュニケーションをとり、声をかけ、話しかけながら意見や要望を聞き出すように努めている。職員からは業務バランス等について提案がされ、話し合いながら改善に努めている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系や労働条件については、出来る限り各自の条件に合うように努めている。残業なしや休憩時間の確保、有給休暇が自由にとれる業務体系を構築し、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍に伴い、外部研修を行う機会は無くなってしまったが、eラーニング等オンラインを活用し、知識と技術の維持向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍に伴い、直接会う機会にはほぼないが、ゆう希苑の他の施設長やグループホーム連絡会で知り合った他のグループホームや高齢者施設の関係者とは、電話やSNSにてまめに連絡を取り合い、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より信頼関係を構築する為に、本人や家族やケアマネージャーだけでなく、友人や知人、近所の方等から情報収集し、その方の理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望は事前に把握し入居する前までに納得するまで説明する事で、不安要素を出来る限りなくすように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のニーズを把握し、当苑(グループホーム)入居一辺倒ではなく、他のサービスを紹介させて頂くこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもあるように、個々に応じた自立した生活を送れるようにする事を大前提とし、出来ない事は一緒に解決したり、尊厳を守りつつ、介助するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者に問題点や新たなニーズが発生した場合には、それらを家族と相談、共有する事で、一方的な立場にならないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防の為に制限はあるものの、面会を再開した。大人数や長時間の面会を避ける等、以前にはいかないが、感染状況に応じて検討している。テレビ電話等も引き続き活用し、関係性の維持に努めている。	馴染みの美容院に行く利用者やお彼岸でお墓参りに訪れるなど一人ひとりの生活習慣を尊重している。行きつけの料理屋での外食や旧知の知人の来訪を歓迎するなど継続的な関係の支援がおこなわれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席を工夫し、入居者同士が良好なコミュニケーションを図れるようにしている。入居者が孤立しないよう、スタッフが話題作りをしたり、間に入ったり対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もその後の状況について連絡を取り合ったり、関係性の維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常からのコミュニケーションによって、思いや意向の把握をしており、言葉に出来ず意思表示が困難な方においては、表情や仕草等から把握するように努めている。把握した事は、申し送りやカンファレンス等にてスタッフ間にて情報共有するようにしている。	本人の好きなこと、苦手なこと、希望を家族を交えて話し合っている。意思表示が困難な利用者は表情やしぐさ、アセスメントから推察し支援に努め、ケア記録にまとめ、家族と検討しながら本人の意向を把握している。	意思表示が困難な利用者のサービス計画書は本人の意向については推察した代弁機能を記載することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や事前面談にて情報収集をし、本人の状態や思い、要望等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録や連絡ノートを活用し、情報を共有し、カンファレンスにて再確認をし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族や医療従事者等の周りからの情報と日常から関わっているスタッフからの情報を基に3ヶ月に1回ケアカンファレンスを開催し、介護計画を作成している。介護計画は状態変化時や定期的にモニタリングを行い、現状に即したものになるようにしている。	サービス担当者会議では問題点解決方法の視点で話し合い、介護度が高くて職員同士が情報を居雄士で問題の解決に取り組んでいる。アセスメントにおける分析が特記事項に詳細に記され共有している。	サービス担当者会議には利用者本人の参加も望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常から個別のケース記録に、様子や変化、気づき等記録に残し、更に毎日行う申し送りや連絡ノートにて情報共有をし、介護計画へ反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から生まれるニーズの中で一番多い、通院介助や外出介助等は、出来る限り対応するようにしている。その他、その時々発生するニーズにも、無理のない範囲で対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍によって、かつて各々が参加していたクラブ活動や社会福祉協議会の主催するイベント等には参加出来ていないが、公園や近所を散歩し、地元の方と挨拶程度の交流をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診は月2回であるが、必要時はこの限りでなく、電話が常に医療従事者と繋がり、状態によっては臨時往診にて対応している。本人や家族の希望や、主治医が必要だと判断した場合は、外部の医療機関の受診も積極的に行っている。	月2回の訪問診療による平時の健康管理と状態変化時や緊急時には、24時間体制での対応が実施されている。なじみの医療機関への継続受診や必要に応じた専門医への受診同行も適切に支援されており、本人および家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約しているクリニックの医師や看護師とは24時間365日、連絡が繋がり、臨時往診や相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、病院の関係者と家族とまめに連絡をとり、情報共有に努めている。時には、病院と家族の架け橋的な役割を担い、治療や退院が適切になるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りに関して、指針を基に、入居前に説明をし、本人や家族の意向にそったケアに努めている。終末期に移行した際には、本人や家族、スタッフや主治医や看護師にてカンファレンスをし、看取り介護計画書を策定し、対応している。	最期にしたいことや食べたいものは何か等、本人および家族の意向を大切に、看取り介護計画書を作成した上で、看取り介護が実施されている。看取り後にはカンファレンスを行い、自分たちの関りについて丁寧に振り返ることで今後につなげるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故等の有事には、施設長に連絡し、マニュアルにそって対応している。イレギュラーが発生した場合も、その都度、施設長が指示をし、適切な対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、夜間想定を含めた火災、水害想定した防災訓練を実施している。近隣住民とは、避難誘導の際にお互い協力体制がとれるよう、情報の共有をしている。	日中や夜間、火災発生時や水害時等の様々な状況を想定しながら、年3回の防災訓練が実施されている。自然災害発生時の事業継続計画(BCP)も作成され、施設長から職員への説明も行われており、施設の状況に応じたブラッシュアップにも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を意識し、距離感や丁寧な声掛けを常に意識して対応している。特にプライバシー性の高い、入浴、排泄介助時や居室等では、羞恥心に最大限に配慮し、生活しやすい環境作りに努めている。	利用者一人ひとりが尊厳のある生活が送れるように支援するために、その人の背景や価値観、思いを把握することに真摯に向き合っている。また、プライバシーに関しても、声かけのタイミングや方法などを配慮した上で個別性の高い対応が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、本人の思いや要望を聞いたり、察するように心がけ、スタッフ本位とならないように、常に選択できる環境作りや声かけを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを尊重し、ひとり一人に合わせたペースで生活できるよう、最大限に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや体格に合わせ、衣類や化粧品等対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や食器拭き等、出来る方には行って頂いたり、好みや希望によってメニュー以外の食事を提供したり、食事が楽しみの一つになるよう対応している。レクリエーションの一環として、たこ焼き、ホットケーキやお菓子を一緒に度々作ったりしている。	食材の準備や食器拭き等は、個々のできることや得意なことを考慮しながら、職員と共同ですすめられている。食事メニューに関しては、利用者意見を尊重し皆で相談しながらテイクアウトや外食を取り入れたり、おやつを手作りするなど工夫を凝らしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取状況と摂取量を記録に残し、把握する事によって、少ない場合は補食や嗜好品を提供し、1日分の摂取量が維持出来る様に努めている。嚥下状態に合わせ、ミキサー食やゼリー食等対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせ、歯ブラシやスポンジ、口腔用のウェットティッシュにて口腔ケアをしている。定期的に訪問歯科に来てもらい、口腔ケアについてのアドバイスを頂き、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行う事で、失禁や失敗を少なくするように努めている。カンパレンスや申し送り等で、その都度、排泄状況を確認し、個々に即した下着やおむつを選定しつつ、出来る限りトイレで排泄出来る様に努めている。	できる限りトイレでの排泄が可能となるように、一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、個々の状態に応じた支援が行われている。また、失禁や失敗を少なくする取り組みも積極的に行われており、尊厳を大切にしたい自立支援に資する支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や生活習慣や食事内容を見直し、只々下剤に頼らない工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に合わせて、週2~3回入浴できるようになっている。拒否や体調に合わせ、無理強いせず、時間や日程を調整する等柔軟な対応をしている。入浴が楽しみの一つとなり、苦痛にならないよう、同性介助、マンツーマン介助、プライバシーの配慮等個々にそったケアをしている。	入浴は、利用者のタイミング、洗身の順番や方法などのこだわりにも柔軟に対応し、ゆっくりと楽しんでもらえるように、同性職員と1対1の介助により行われている。安全面に対しても清潔管理や温度管理を徹底しており、安心して入浴ができる環境が整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人のペースに合わせて、休みたい時に休んだり、リラックスしたい時はそのスペースを提供したり等している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬の情報はいつでもスタッフが確認出来る様に、ファイルにまとめている。新たな処方や変更があった場合には、申し送りや連絡ノートにて情報の共有するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や掃除、洗濯等の日々の事や散歩や本、テレビ、音楽等個々の趣味趣向にあった環境作りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	隣接された公園で散歩したり、入り口近くで外気浴は日常的に行っている。以前はコロナ禍にて希望する外出支援は出来ていなかったが、感染防止対策を講じながら、徐々にしている。	駐車場での外気浴や隣接された公園への散歩は、日常的な支援が行われている。感染症対策により複数名での外出支援は困難な状況であるが、反対に外食やスーパーへの買物、美容室へ通うなど個別支援に取り組むことで利用者の要望に応えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて、金銭を所持している方もいるが、基本的に預かり金として施設が管理している。入居者の希望や必要なものがあれば、預かり金から購入するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人もしくは家族双方の希望に応じて、出来る限り対応している。手紙は、年賀状等を含め、積極的に支援し、本人と家族との関係が良好な関係が保たれるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃と換気、温度湿度調節を行い、出来る限り清潔で居心地の良い環境を保つよう心がけている。又、リビングには、四季を感じられる装飾をしたり、レクリエーションで作成したものを飾ったりして、生活感や季節感を取り入れつつ、快適な空間になるように配慮している。	リビングには、職員と利用者が共に作成した季節感のある貼り絵が飾られている。居心地よい共有空間となるように清潔面には留意をし、特に玄関とトイレ清掃は徹底して行われているため、においがこもることもなく、さわやかな風が通る環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士の座席になるよう配慮し、時には居室やソファ等で独りになったり等、個々に合わせた思い思いに過ごせる環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や思い入れのある品物を居室に置き、安心して落ち着いて過ごせる様になっている。写真や家具だけでなく、観葉植物や仏壇等、出来る限り思い思いのものを置けるようにしている。	本人の慣れ親しんだものや好きな物を配置することで、落ち着く居室づくりに努めている。帰宅願望が強く靴を探し続ける方には、制止することなく靴箱を設置し、安心感をもってもらえるように配慮するなど、その方の思いを大切にした対応が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全対策にばかり留意していると、生活感や自立性が低下するので、両者がバランスよくなるような環境作りに努めている。		